

新四国相馬霊場八十八ヶ所を巡る会、

平将門伝説を残す取手西部を巡る。

集合場所と時間：常総線寺原駅北口前、午前8時半。

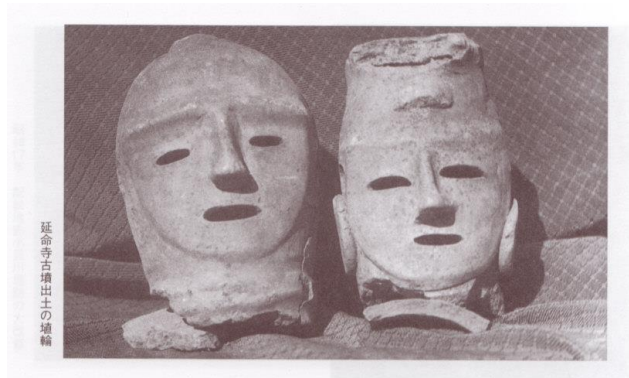
受付は第69番観音堂境内で行います、徒歩で5分程です、道案内係員の指示に従ってください。

解散予定場所と時間：常総線稲戸井駅、午後12時半頃の解散予定です。



Photo Reiko.T 2004/05

三仏堂の坐像三仏、釈迦如来=過去(左上→)
阿弥陀如来=現在、弥勒菩薩=未来(←右下) ©



延命寺古墳出土の埴輪

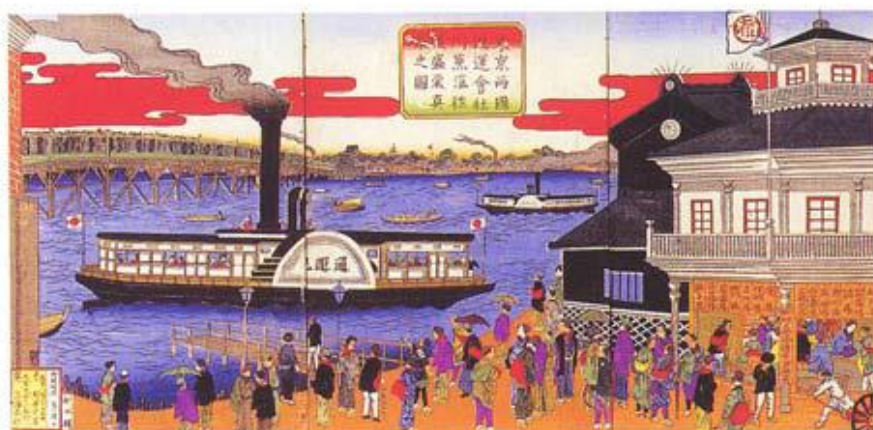
岡の仏嶋山古墳出土の埴輪、
東京国立博物館収蔵

利根運河の創始者廣瀬誠一郎



広瀬誠一郎
所蔵 広瀬篤氏

廣瀬誠一郎



川蒸気船「通運丸」の錦絵、千葉県立関宿城博物館蔵

「通運丸」は明治33年頃を盛りに、銚子、土浦、水海道の鬼怒川や利根川などから、利根運河を利用して江戸川を下り東京日本橋へ定期運行された川蒸気船です。川底が浅いため外輪船、船体側面の水車で推進する旅客船でした。

かつて柏の利根川と野田の江戸川を結んでいた、利根運河の経路により水海道や取手間は、乗客扱いの定期便「通運丸」は上り8時間下り14時間を要していましたが、昭和初期まで水運は賑わいました。

しかし常磐線や常総鉄道の鉄道開通や、台風などの洪水で水路の修繕費増大により衰退しました。

現在、東武野田線の運河駅周辺は公園になっており記念碑が残り、公園周辺の桜が咲く頃は大勢の花見客で賑わいます。

の和田沼(わだぬま)に鷹狩りに訪れていたようです。根拠は柏市布施にあった旅籠を営んでいた頃の先代の話を知っている御息からお伺いした話です。和田沼は、雁や鴨の渡り鳥の飛来地で江戸時代から雁猟で知られるところでした、シーズンになると布施の旅籠は猟師の宿泊客で賑わったそうです。布施天から利根運河までに大きな沼が六沼あり総して和田沼といいました(現、田中遊水地 柏斎場下)、徳川慶喜や有馬候らの名士が明治二十年頃雁猟にお訪れていたそうです。

この頃、廣瀬と人見寧は親しい関係であり、勝海舟と人見寧は明治三年に薩摩へ遊学の際、西郷隆盛に面会を申し出る為、勝海舟から紹介状と十両の旅費を受けているほどの師弟仲でした。

「勝海舟日記」に、明治二十年二月十八日 大見、一人同道・・とあります。廣瀬家に残る「書」の年月と同じ頃であり、「二人同道」こそ勝邸に人見と訪れた、廣瀬誠一郎なのではないでしょうか。

更に、明治十二年四月六日 利根川を下り、キリッ(川の流れを弱める為に、川の中に杭を並べて打ちその中へ大きな割石を据えた護岸)を見る。初夜、帰宅」と記され、利根川に来ていることは間違いのない。戦後は、なぜかGHQが日本を制した戦後、米軍人がどこで知ったのか猟に来るようになり、和田沼から雁や鴨の姿は消えてしまったそうです。

【四国移し寺の浄土寺】 空也上人が四国を巡歴し、浄土寺

に滞留したのは平安時代中期で、天徳年間(927～931)の3年間、村人たちへの教化に努め、布教をして

親しまれた。

鎌倉時代の建久3年(1192)、源頼朝が一門の繁栄を祈願して堂塔を修復したが、応永23年(1416)の兵火で焼失、文明年間(1469～87)に領主、河野道宣公によって再建された。

空也上人像は、本堂とともに国指定重要文化財。

像高 121cm、木造、玉眼。口元から六体の阿弥陀小化仏を吐いている。本坊の庭に二代目の空也松がある。

本堂厨子に室町時代から江戸時代にかけての落書きがあり、水戸から訪れた落書きが見られ貴重な歴史資料となっている。

第四十七番、三仏堂、国指定重要文化財、

米の井の龍禅寺境内。(廁)

〔本尊〕 釈迦如来座像、阿弥陀如来座像、弥勒菩薩座像の三仏、〔移し寺〕 愛媛の熊野山八坂寺。

〔詠歌〕 花を見て歌詠む人は八坂寺

三仏じょうのえんとこそさけ

三仏堂は、延長二年(924)伝誉阿闍梨の開創と承平七年(935)將門により改修とあるが共に不詳。

平將門が守り本尊として崇敬したが、將門誅伐後は一時公儀を憚って廃類し、源頼朝が建久3年(1192)国守千葉常胤に命じて修理させた。

徳川家康の代になって田畑の寄進がされたが、廃祿上地の結果荒れてしまい、重要文化財に指定されてから修復が行われた。

現存の三仏堂は昭和61年に改装されていて以前の面影は柱と壁の一部に残し屋根は創建時の姿に近

い状態に改装されました。

取手は平將門の生誕の地と伝えられる、將門の母は出産の際、大蛇になり子の身体を舐めることで矢も刀の刃もよせつけない鉄の身体を与えたが眉間だけは舐めなかつた為に、藤原秀郷に矢で射抜かれたという伝説があります。

〔注釈〕金戒光明寺本により將門伝説は各地に残る。

三仏像、平將門の寄進とも言われる(年代不一致)。

三仏像は一木三体彫り(一本の木から三体を彫る)です。画像は頂いたものでコピー禁止。

三仏とは過去の釈迦如来、現在の阿弥陀如来、未来の弥勒菩薩を言います。

須弥壇上では中央が阿弥陀如来、右下脇侍が弥勒菩薩、左上脇侍が釈迦如来になります。

三仏堂は天慶二年(939)開基、三仏像は將門に慕われ、源頼朝に守られ、千葉常胤に保存維持を受け、徳川家康から19石のご朱印を受けてきました。

阿弥陀如来は建久三年(1193)頃の作、大乘仏教の尊氏お釈迦さまを脇侍とした三尊配置です。

龍禅寺ご本尊の阿弥陀三尊も、一般的な三尊と違います。中尊阿弥陀如来坐像、脇侍が観音菩薩と地藏菩薩です、一般的には地藏菩薩ではなく勢至菩薩ですね。こんな口伝が残っていました。

法念上人は龍禅寺阿弥陀三尊の開眼供養をたのまれたのですが地藏菩薩の為に断ったといっています。

取手市史社寺編より

天台宗寺院のため戸頭の廃寺永蔵寺跡の管理する寺院として、また国重文三仏堂保全の寺として、大

変重要な、そして歴史的龍禪寺であります、相馬霊場札所も綺麗に掃除され大変有難いことです。

安産三仏堂」とも言われ、安産祈願の人々が灯された残りのローソクを頂いて帰る習俗がありました。

三仏堂は相馬霊場開催時はいつも扉が開いていますが、いつでも開帳している訳ではありません。

個人的に拝見するには盆休みかお彼岸など、檀家さんの墓参り開場するようなので、時期を合わせて問いあわせると、開けてくれるかもしれません。

第七十九番、米井山(べいせいざん)無量寿院龍禪寺、

天台宗の禪寺。米の井

〔本尊〕阿弥陀如来立像、十二面観音と地藏菩薩

〔移し寺〕香川の金華山高照寺。

〔詠歌〕十楽の浮世の中をたずぬべし

天皇さへもさすらいぞある

山門は倒壊の為、本堂内陣の両側に仁王像二体が安置されています、運慶作と言われるが疑問です。

山号の米井山は平将門の伝説に由来します。

伝説)

承平七年(937)に、将門が武運長久祈願の為に三仏堂に詣りました、すると堂前の井戸から水が滝のような形で噴き上げました、水はさらに米になって吹き上げたようで、米の井戸」から、地名が米の井となったそうです。紅龍伝説といえます。

井戸跡は残っているのですが、昔の面影はなく電動ポンプが動いています。

此の井戸には、将門に関するもう一つの伝説があります。

取手は、将門生誕の地としての伝説が残っています。寺田の惣代八幡社は、将門生誕の地伝説や新取手大山の将門の生母が日常的に使用していた井戸、駒場の駒場神社の跡は、現在祠だけです、野馬の軍事調教場であったという伝説等です。相馬霊場第69番の近くにあります。

埼玉県児玉の栄螺堂と三仏堂の存在

龍禪寺の本尊阿弥陀と三仏堂の仏像の兄弟が、児玉の成身院さざえ堂にあります。

関東三大栄螺堂群馬県太田市、本庄市児玉、取手である成身院には、三仏堂がありますが、堂が荒廃している為、同境内の栄螺堂に三仏像が移されています。薬師、阿弥陀、釈迦如来の三仏です。

どのような経緯で此処にあるのかは不明です。

桔梗塚、

該当場所が狭いため立ち寄りません

承平元年(931)長禅寺の落慶式で桔梗に出合う。

桔梗塚は、平将門の愛妾桔梗のお墓という。

この辺りには将門についての言伝えが多く、桔梗御前については様々の伝説があります、桔梗は秀郷の妹(事実と違います)であり将門の愛妾となったが、戦が始まってから将門側についたと言う、桔梗は兄に言葉たくみに騙されて情報を提供をしたという。

秀郷はこれにより勝利を得たが、この事が暴露されると後世まで非難されると考え、この場所で桔梗を殺害したと言う。里人は大いに哀れみ、塚を築いて遺骨を納めたと言う説。

桔梗御前は将門と共に岡堰の朝日御殿に住み、将

門の死を聞いて近くの桔梗田と言われた沼に入水して死んだとも云われている、桔梗の自殺に憐れみ大山(新取手海老原宅近隣)の人々が桔梗の塚をここに建てたという二説があります。

其処に植えられた桔梗に花が咲かなかったの、この辺りでは 桔梗は植えない、娘がいつまでも嫁に行けなくなるから。」と伝えられてきました。

しかし、花が咲かない桔梗は薬草であり、あえて花をつけないように栽培する種類が薬草として妙薬である為に、薬売りの宣伝話として創作したとも思え真実味がある。

桔梗塚は、稲戸井駅裏手の国道294号沿い歩行者用信号の隣りの二間四方程の生垣の中にあります。

打上



相馬家
幕紋の繋ぎ馬

次回の予定.. 発願、相馬霊場とお遍路さん」
開催予定日 2019年2月24日(第4日曜日)延期翌週。
集合場所と時間 : JR常磐線取手駅西口デッキ上
午前8時半。解散予定、取手駅午後12時半頃。

新四国相馬霊場八十八ヶ所を巡る会参加者資料

2018年11月28日 記